

### 編集後記

◆一事を成し遂げた人、意志強く生きている人の言葉は、心の底にひびくものです。取材で森田先生に出会い、また、本号にご寄稿いただいた方々の文章を拝読して、改めて感じました。

◆さて、曼珠沙華咲き、秋あかね舞う季節を迎えました。学校は運動会、文化祭のシーズンでしょうか。子どもたちが生き生きと活動し、貴重な体験ができるよう期待しています。

◆それぞれの地域でもさまざまな文化行事が行われることでしょう。企画、運営をする人、舞台上上がる人、聴衆・観衆となる人、参加するすべての人たちが喜びを享受できますよう。

◆当財団も、今日（九月十九日）文化発表会を行います。昨年度助成させていただいた文化関係十五団体の方々が、ステージで、あるいは展示で成果を発表されます。

◆本号の編集に当たっては、多くの方にご助力いただき、感謝いたします。今後ともご支援をお願い申し上げます。

(古市)

### 随想



教育の荒廃が叫ばれて久しい。最近では、青少年犯罪の増加、学力の低下、学習意欲の減退などが大きな社会問題になっている。特に少年凶悪犯罪の続発、学校・学級崩壊とまでいわれる深刻な事態のなかで、子どもの教育、とりわけ学校教育のあり方やその責任が問われている。

しかし、教育の問題は学校だけでは解決しがたい。そのことは、最近の少年をめぐる事件や大人社会の汚職や不祥事、エリートとみなされてきた人たちに深く進行している無責任、道徳的退廃の露呈からも明らかである。

こうした教育と大人世代の退廃がどうして生じたのか。教育という仕事は本来どうあるべきか。

現代は価値多様化の時代と言

われる。高度経済成長のなかで、かつてない豊かで便利な生活を獲得して以来、それはよいことのように言われている。しかし、価値の多様化、相対化を認めるにしても、やがては各人が自分にとって価値があると思うことを何でも主張してかまわないということになる。その結果は、価値の打算と混迷をもたらすことになる。

## 教育の復権を求めて

岡山大学教授 森川 直

このような社会は、子どもから見た場合、実は価値不確定、絶対的な価値の不在の社会に他ならない。しかし、子どもという人間は、確たる価値のよりどころなしでは生きられない。彼らはまだ小さい、頼りない存在である。

子どもは自分が迷ったとき、どちらへ行ったらよいか、何が善く何が悪いか、をはっきり教えてくれる信頼できる大人を必要としている。そしてこの子どもの期待にまづこたえなければならぬ大人こそ、子どもの最も身近にいる両親と教師なのである。

それゆえ、価値不確定の時代だからといって、両親と教師は自らの価値の判断と選択を避けることは許されない。もちろん、あえて未来に向けて決断するからには、入念な熟慮と勇気が必要であることは言うまでもない。子どもは、両親や教師が具体的な場面に即して「イエス」か「ノー」かをはっきりと断言してくれることを求めている。それ

もの主体性を尊重するあまり、彼らの「学び」に委ねる傾向がありはしないか。これまでの教育が「詰め込み」や「教え込み」に偏っていたことへの反動であろう。ただ、それがスローガンとしてもはやされる陰で、子どもが学ぶ上での教師の役割を軽視しすぎていないだろうか。教師のしつかりとした指導なしには、子どもの主体的な学習は成立しないのである。

教育が混迷を極めるなかで、今日ほど両親と教師にとって「教育する勇氣」(和田修二)が必要なきはならないと言つてよい。われわれは改めて教育の本源に立ち返り、真の意味での教育の復権をめざすべきではなからうか。

(福武教育振興財団 理事)

## 海外教育事情調査団 今月末から韓国へ

福武教育振興財団の事業、海外教育事情調査は、今年度はIT教育の先進国である韓国で行うことになりました。当財団の福武総一郎理事長が顧問となり、森崎岩之助理事を団長に、県下の学校の先生や教育行政関係者、ベネッセコーポレーションの人たち、計23人で調査団を結成し、ソウルと釜山で学校を訪問したり、教育関係者との情報交換を行ったりします。

一行は9月30日に岡山を出発、10月5日帰国の予定。調査の成果は後日「海外教育事情調査報告書」として発表されます。



文化関係 助成は49件

### 福武文化賞

## 森田翠玉氏(木工芸)・三沢浩二氏(詩人)が受賞

### 奨励賞は東 敬一氏(演出家)と岡山フィルハーモニック管弦楽団

福武文化振興財団は、六月二十七日、平成十五年度福武文化賞・同奨励賞及び文化関係助成の贈呈式を、岡山市内のホテル

で行いました。福武文化賞は、木工芸作家の森田翠玉氏と詩人の三沢浩二氏に、同奨励賞は演出家の東敬一氏と岡山フィルハーモニック管弦楽団に贈りました。

同時に文化関係助成の贈呈を行い、伝統文化の振興や現代文化の発展のために意欲的に活動している四十八の団体と一個人に、総額一〇三五万円を贈呈しました。

と激励の言葉を送りました。受賞者の功績は次のとおりです。

## 福武哲彦 教育賞に 高旗正人氏、鳴方高校 延堂雅弘氏、津田秀哲氏

谷口澄夫教育奨励賞は

同財団の福武総一郎理事長は、受賞された方々や助成を受ける団体等に対して、「文化は、本来地域固有の歴史、風土の中から育ち、成長していくもの。地域に根ざした文化を発信し合つて、岡山県の文化がより豊かなものに、さらには、我が国の文化がより充実したものであるように、さらに活躍してください。」

七月六日、福武教育振興財団は「平成十五年度福武哲彦教育賞・谷口澄夫教育奨励賞及び教育関係助成贈呈式」を岡山市内で行い、岡山大学名誉教授の高旗正人氏と岡山県立鳴方高等学校に福武哲彦教育賞を、岡山市立南輝小学校教諭の延堂雅弘氏と岡山県立瀬戸南高等学校教頭津田秀哲氏に谷口澄夫教育奨励賞を贈りました。

式典に臨み、福武総一郎理事長は「今、地方の時代を迎え、

地域をベースにした教育が促進されることは大変好ましいが、国際化、IT化という大きな流れにも呼応しなければならぬ。大きな課題を担っている皆さんに多少なりともご支援ができればと思つている。」とあいさつ。

教育関係助成では、教育研究助成六十五件、図書助成三十七件、英語研修助成二件、指定研究助成一件、特定教育事業助成二件が選ばれ、助成証書と目録を贈呈しました。



教育関係受賞者及び助成を受けた方々と来賓・財団関係者

受賞者の功績は次のとおりです。

**高旗正人氏** 長年にわたって学会と教育現場との統合を唱え、教育の質の向上に努めてきた。

**鳴方高等学校** 幅広い学習機会の提供とITを活用した教育活動により、生徒の学習意欲を大きく向上させた。

**延堂雅弘氏** 教育相談のレベルの向上と障害児教育の発展に大きな貢献をした。

**津田秀哲氏** 創造的なインターネット交流を実践し、情報教育の先進的なモデルを示した。

(根本)

